

開 会 挨拶

京都産業大学 学長

藤岡 一郎

皆様こんにちは。ようこそ京都産業大学においでくださいました。全国各地からご参集いただき、心より御礼申し上げます。本日は会場校の代表として一言ご挨拶を申し上げます。

ご承知のように、大学コンソーシアム京都主催のFDフォーラムは、今回で第17回目を迎え、もう春の風物詩といっても過言ではないフォーラムとなりました。前回(第12回)本学で開催された際も約1,000名、今回は1,100名近くの教職員の皆様が、全国各地からお見えになり、このような形でお迎えするという事は、大学コンソーシアム京都にとりましても、会場校である本学にとりましても、大変光栄に存じます。

今回のFDフォーラムでは、特に2日目の第10分科会にて、「連携して取り組む教育改善～日米のコンソーシアム活動を通じて考える～」と題し、Colleges of the FenwayのディレクターであるPasch氏とHsu氏をお招きし、日本とアメリカのコンソーシアムが抱える課題について考えるという企画もあるようです。今や、世界的な規模でのFD、そして、大学教育の本質に関わるようなご議論がこのフォーラムで展開されるものと期待しております。FDフォーラムの企画、運営に対しご尽力いただきました、大学コンソーシアム京都の企画検討委員会の皆様に厚く御礼を申し上げます。

さて、ここで少しだけ本学のご紹介をさせていただきます。本学は、京都駅から地下鉄、バスで約30分の圏内に位置しています。現在、文系・理系あわせて8学部8研究科全ての施設がこの一拠点に集中し、学生数約13,000名、教職員数約700名で運営している大学でございます。

今回のFDフォーラムのテーマである「大学におけるキャリア教育を考える」については、本学では今から15年ほど前から、このような問題意識のもとに様々な取組を展開し、積み上げてきたという経緯がございます。今回のテーマにも非常に関心の深いところでございます。また「FD」という言葉につきましても、諸説紛々様々な解釈が

あろうかと思えますし、実質的に一体FDの目指すところはどこなのかということも含めると、まだまだ不透明なところもあろうかと思えます。しかし、そのようなことも含めて、今回のシンポジウムや分科会では、おそらく根源的な、活発なご議論が展開されるものと、私共は期待し、関心を持っております。

いずれにしましても、京都産業大学の「建学の精神」にごぞいます大学の使命というのは、「将来の社会を担って立つ人材の育成」を根幹に据えており、今回のFDフォーラムでの2日間にわたるご議論での成果が、私共の血となり肉となると思っております。今後、本学における教育改善・教育改革を進めていく上で、大いに参考にさせていただき、励んでまいりたいと思っております。また、この2日間にわたる先生方の様々なご議論、あるいは企業様とのご議論の中から、次のFDの目的と本質に関わるような成果が出てくるものと期待しておりますし、その成果を十分活かさせていただきたいと思っております。私も、教育の花咲く、そういう場に立ち会えるという喜びを甘受したいと思っております。

最後になりますが、本フォーラムは、大学コンソーシアム京都が主催となっておりますが、文部科学省、京都府、京都市共々のご後援をいただき、毎年このような形で開催されています。何よりも、全国から集まってくださる教職員の皆様がおられるということが大きな支えになっているということに対しまして、改めて感謝を申し上げます。また、この大学コンソーシアム京都は、京都にある各大学から出向した教職員の方々に運営されており、その方々のご労苦に対しましても、一大学人として御礼申し上げます。

ぜひ、お時間が許す限り、本学および京都でエンジョイしていただきたいということをお願い申し上げます。本日はご参加いただき、誠にありがとうございます。

開 会 挨拶

第 17 回 FD フォーラム企画検討委員会委員長
京都産業大学 法学部 教授

耳野 健二

皆さんこんにちは。本日は、学年末の大変お忙しい時期に、かくも多数の方にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私はただ今ご紹介いただきましたように、第 17 回 FD フォーラム企画検討委員会の委員長を務めております耳野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。ここでは主催者を代表しまして一言ご挨拶と、企画の趣旨のご説明を申し上げたいと存じます。

この FD フォーラムは、先ほどの学長のお話にも少しございましたが、公益財団法人大学コンソーシアム京都が主催をいたしまして、もう 17 回目になります。1995 年に第 1 回を開催いたしましたから、毎回多数の方にご参加いただきまして、今年度第 17 回にいたりましては、約 1,070 名のお申込みを頂戴しております。今日も多数お越しいただいて、ちょっと会場が狭い感じになっておりまして真に恐縮ですが、これも多数の方にご参加いただいているということですので、何卒ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

さて、今回の第 17 回 FD フォーラムのテーマでありますが、後ろのスクリーンにございますし、すでにご存じでいらっしゃるかと存じます。「大学におけるキャリア教育を考える。企業が求める人材って大学で育成しないとだめ?」と、今回はややくだけた感じの言葉を使いながらのテーマ設定となっています。ご承知の通り、キャリア教育、あるいは社会人基礎力、あるいは就業力、いろいろな形でたとえば文部科学省のほうから、こういう教育が望ましいというような提案があったり、あるいは産業界や経済界のほうから大学教育へのさまざまな要望が出されたりしております。他方で、おそらくどの大学でも、学生さんの学力が思ったほど高くない、あるいは低い、あるいはメンタルな問題や学習意欲の問題、さらには経済状況に伴う、学習を困難にするさまざまな要因が存在し、そのなかで皆さま、たいへんご苦労をされていることと存じます。今回このようなテーマを設定いたしましたのも、そのような全国の大学関係者の皆さまに向けて、エールを込めて、一緒にこの問題を考えたいと思いましたがゆえに、ややくだけた感じではありませんけれども、このような形でキャリア教育を中心としたテーマを設定した次第です。本日、このあとやや長い時間お付き合いいただくこととなりますが、どうぞ

最後までご協力くださいますようお願い申し上げます。

そして、今日、第 1 日目が終わりますと、ミニシンポジウム、あるいは分科会にお分かれいただきまして、さらにもう 1 日お付き合いいただくこととなります。そちらの方では、初年次教育ですとか、高大連携、あるいは看護系や芸術表現系ですとか、さまざまな形でミニシンポジウム、分科会をご用意してございます。明日もまた長い時間になりますが、お付き合いいただきますようお願い申し上げます。

それからもう一つ是非申し上げておきたいのですが、皆さまもご承知のとおり、昨年 3 月 11 日の大変な東日本大震災からもうすぐ 1 年が経とうとしてございます。本日お集まりいただいた皆さまの中にも関連する方々もおられるかと存じます。我々、FD フォーラムの企画検討委員会といたしましても、改めて被災された方々に対しまして心からお見舞いを申し上げますとともに、1 日も早い復興をお祈り申し上げる次第でございます。また、こういう気持ちもございますので、今回の分科会では例えば災害対策と大学というようなテーマも設定いたしまして、改めて大学の役割を考えなおすという機会を設けたところでございます。

さらにまた、今回は海外からもゲストをお招きしております。ゲストの皆様にも、明日の分科会では 1 日お付き合いいただき、議論にご参加いただく予定です。海外からおいでくださった皆さまにも、心から歓迎の意を表しますとともにご協力に深く感謝申し上げます。また、

皆さん、今日、それから明日と長い時間にわたりおつきあいいただくこととなります。この間、皆さまにはいろいろとご面倒やご不便をおかけすることもあるかもしれませんが、FD というのは、何よりも自由闊達に楽しくご議論いただくというのが一番いいと、私は日頃から感じております。ぜひこの機会を活用いただきまして、自由な意見交換と情報交換をしていただき、実りあるお時間を過ごしていただきたいと思っております。また、運営上の不備等がございましたら、是非あわせて厳しくご指摘をいただけましたら幸いです。

以上、大変簡単ではございますが、私からのご挨拶とご説明とさせていただきます。どうもありがとうございます。